

育苗箱専用殺虫剤

アトラクトン®

ジノテフラン粒剤

有効成分：ジノテフラン ……12.0%

箱粒剤



三井化学アグロ株式会社

水稻初期害虫から

斑点米カメムシ類まで同時に防除

- 有効成分ジノテフランを12%配合することにより、従来の箱処理剤では防除が困難であった斑点米カメムシ類の防除が可能です。また、水稻の主要害虫であるイネドロオウムシ・イネミズゾウムシに安定した効果を発揮します。

本田散布が難しい地域での新しい防除法

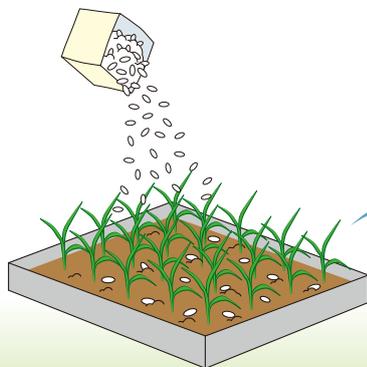
- ドリフトや散布労力などの問題で、本田での防除が難しい地域に省力的な防除方法を提供します。さらに、成分数の削減にもお役立ていただけます。

長期間の効果持続を可能とした新製剤

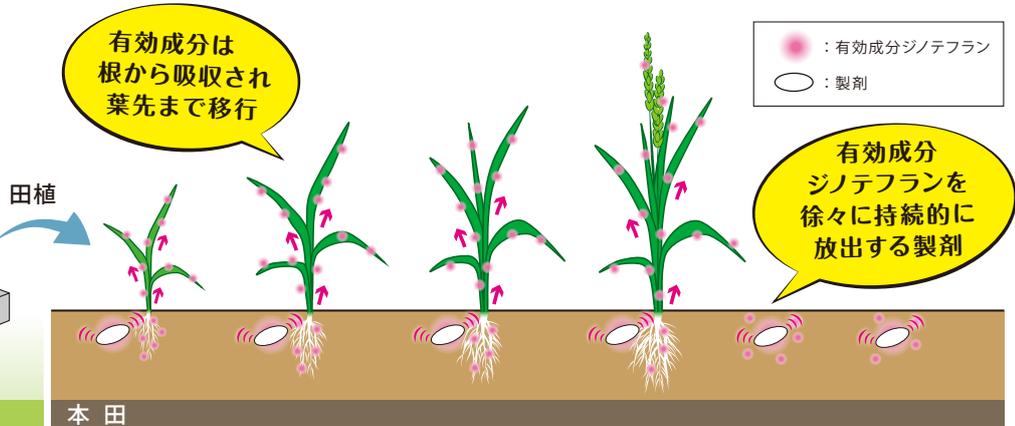
- 有効成分ジノテフランを徐々に、持続的に放出する製剤のため、長期間効果を持続します。

新製剤

従来の製剤



育苗期



本田

イネミズゾウムシ

イネドロオウムシ

防除が必要な時期

斑点米カメムシ

●新省力体系

アトラクト®
箱粒剤

殺虫効果の持続期間

殺虫剤
状況に応じて追加散布

殺虫剤
状況に応じて追加散布

●今までの体系

箱粒剤

殺虫効果の持続期間

殺虫剤

殺虫剤
状況に応じて追加散布

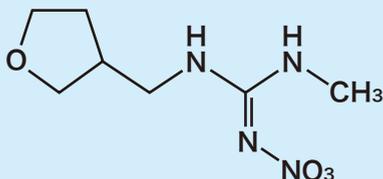
有効成分

一般名：ジノテフラン

化学名：(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)グアニジン
(IUPAC名)

含有量：12.0%

構造式：



作用性 ジノテフランは昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こし、殺虫効果を発揮します。神経シナプス後膜のアセチルコリン受容体にジノテフランが結合し、神経伝達をかく乱することで、昆虫が麻痺し、死亡すると考えられています。

斑点米カメムシ類に対する防除効果

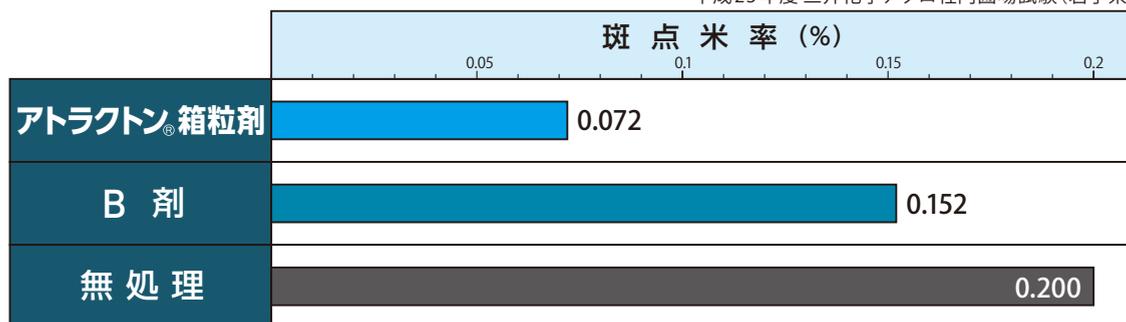
平成18年度「新農業実用化試験成績」(日本植物防疫協会)より一部転記
秋田県農林水産技術センター農業試験場



品 種：あきたこまち は 種：4月11日 移 植：5月16日 出穂期：8月7日
発生状況：アカヒゲホソミドリカスミカメ 少発生
処 理：<試験区>移植当日に箱あたり50g処理 <対照区>出穂10日後(8月17日)に本田散布
調 査：収穫期(9月15日)に各区10株を刈取り、乾燥・調整後、1.9mm篩にかけた精玄米について斑点米数を調査。

➔ 対照の出穂期10日後散布とほぼ同等の防除効果が認められました。

平成23年度 三井化学アグロ社内圃場試験(岩手県)



品 種：ひとめぼれ は 種：4月22日 移 植：5月25日 穂揃期：8月1日
発生状況：アカスジカスミカメ 多発生、アカヒゲホソミドリカスミカメ 少発生
処 理：移植当日に、箱あたり50g処理
調 査：収穫期(9月15日)に各区200穂を採取、調整後、精玄米の斑点米数を調査。

➔ 対照に優る防除効果が認められました。

アカヒゲホソミドリカスミカメ



アカスジカスミカメ



イネクロカメムシ



イネミズゾウムシに対する防除効果

平成24年度 三井化学アグロ社内圃場試験(千葉県)

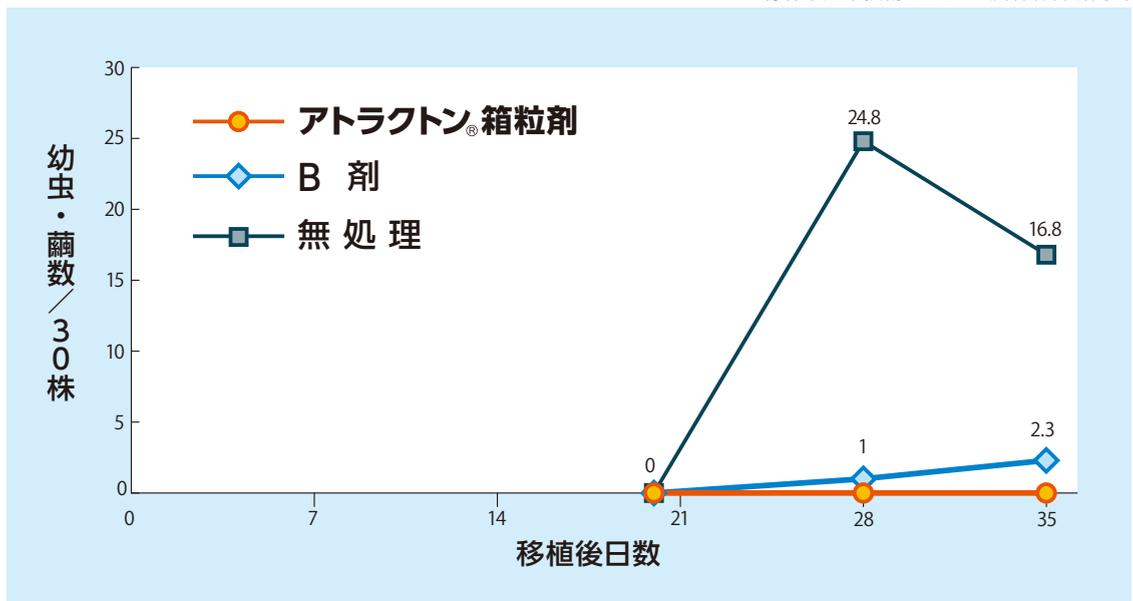
幼虫・土繭数・対無処理指数	
	50 100
アトラクトン®箱粒剤	0
B 剤	0
C 剤	0
無処理	100

品種：あきたこまち は種：4月7日 移植：4月28日 発生状況：少発生 処理：移植当日、1箱あたり50g 処理
調査：移植55日後、各区4ヶ所より各々5株掘り取り、生息している幼虫と土繭数を調査した。

➔ 対照とほぼ同等の高い防除効果が認められました。

イネドロオウムシに対する防除効果

平成22年度「新農業実用化試験成績」(日本植物防疫協会)より一部転記
青森県産業技術センター 農林総合研究所



品種：つがるロマン は種：4月16日 移植：5月28日 発生状況：少発生 処理：移植当日、1箱あたり50g 処理
調査：移植20日後、28日後、35日後、各区30株×2ヶ所 幼虫+繭の生息数を調査

➔ 対照に比較して防除効果が優り、無処理に対して高い防除効果が認められました。



上手な使い方

移植当日に育苗箱1箱あたり50gを均一に散布してください。

① 箱当り50gを均一に

育苗箱の上から均一になるように散粒してください。



② 軽く払って

薬剤散粒後、軽く苗の上半分を払い、葉にひっかかっている薬剤を培土の上に落としてください。



③ 十分に水やり

最後に上から十分に灌水し、薬剤を培土の上に落ち着かせてください。



50g 散布密度



拡大



使用に当たっての留意点

◆水管理>>>

◎減水深の大きな圃場では、十分な効果が得られなくなる恐れがあります。

◆周辺に草地がある場合>>>

◎水田内にヒエやホタルイなどの雑草が多い場合や、水田の周囲に休耕田、牧草地、高速道路ののり面、土手などの草地がある場合、カメムシの繁殖源となり、水田内への侵入が多くなります。

◎出穂10日前までに草刈りなどの管理を行ってください。

◎雑草管理ができない場合は、本剤の使用はおすすめできません。

◆割れ粃※の多発が予想される場合>>>

◆カメムシ類の発生が遅延する場合>>>

◎出穂14～21日後頃に、本田防除を行ってください。

※7月中下旬頃低温で籾の生育が悪く、かつ8月高温で登熟が進む場合は、割れ粃が発生しやすくなります。品種によっては割れ粃が発生しやすいものもあります。

◆カメムシ類が多発する場合>>>

◎出穂14～21日後頃、状況に応じて本田防除をご検討ください。

特に、本田でのカメムシ密度が低下しない場合は、本田防除を行ってください。

◆カスミカメ類*以外のカメムシ類が発生する場合>>>

◎本剤のみでは効果不十分となる可能性がありますので、必要に応じて本田防除を行ってください。

*カスミカメ類は、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ムギカスミカメなどです。

アトラクト

箱粒剤

■有効成分：ジノテフラン…12.0%

■人畜毒性：普通物*

※「毒物および劇物取締法」(厚生労働省)に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

適用害虫と使用方法

2013年12月10日現在

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジノテフランを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	カメムシ類	育苗箱 (30×60×3cm、使用 土壌約5ℓ) 1箱当り50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ		移植3日前 ～移植当日			

注意事項

- 本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水してから田植機にかけて移植してください。
- 誤って過剰に使用すると葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用方法を厳守してください。
- 容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○防除日誌を記帳しましょう。
○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ○容器・空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。

*本製品は農業用殺虫剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。

*本印刷物は2013年12月10日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

MIE-1007 粒剤研究会

<事務局> 三井化学アグロ株式会社
東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター



三井化学アグロ株式会社

東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
ホームページ <http://www.mitsui-agro.com/>